

要求水準・目標値(評価指標)

| 視点 | 評価項目 | 2020年度 評価指標 | | | | | 実績 | 評価 | 評価コメント |
|----------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------|-----------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------|--------------------------|
| | | いくとびあ食花4施設 | 食と花の交流センター | 食育・花育センター | 動物ふれあいセンター | こども創造センター | | | |
| 市民 | 入場者数 | いくとびあ食花4施設の来場者数 : 1,573,000人以上/年 | | | | | 1,203,502人 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 団体利用 | 食と花の交流センター : 利用団体360団体以上/年 | | | | | 81団体 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | | 食育・花育センター : 利用団体450団体以上/年 | | | | | 225団体 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | | 動物ふれあいセンター : 利用団体450団体以上/年 | | | | | 184団体 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | | こども創造センター : 利用団体400団体以上/年 | | | | | 189団体 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 体験と学習 | 団体体験プログラムの実施:400回以上/年 | | | | | 323回 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 交流の拡大 | 交流イベント : 8回以上/年 | | | | | 7回 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 多彩な事業展開 | 食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 : 年130回以上/年 | | | | | 175回 | A | 指標を大きく上回った |
| | 食育・花育の推進 | 料理教室等の開催 : 年170回以上/年 (主催・共催・委託を含む) | | | | | 173回 | B | 指標通り |
| | | 園芸講座等の開催 : 90回以上/年 (アトリウムでの開催を含む) | | | | | 87回 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 食と花のプロモーション | プロモーション事業 : 10回以上/年 | | | | | 52回 | A | 指標を大きく上回った |
| 譲渡事業の推進 | ・市に收容された犬の譲渡率:70%以上/年 ・市に收容された猫の譲渡率:39%以上/年 | | | | | ・市に收容された犬の譲渡率:91.7% ・市に收容された猫の譲渡率:62.6% | A | 犬、猫とも指標を大きく上回った | |
| 広報の充実 | ・HPの情報更新 : 300回以上/年 ・アクセス件数 : 40万回以上/年 | | | | | ・HPの情報更新 : 414回 ・アクセス件数 : 391,337回 | B | アクセス件数が若干未達であるが、更新回数が指標を大きく上回っているためBとした | |
| 利用者の満足度 | 利用者アンケートで「満足」が85%以上 | | | | | 98.5% | A | 指標を大きく上回った | |
| 財務 | 適正な財政運営 | 収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行 | | | | | 指定管理収支が赤字 | C | 指定管理収支が赤字 |
| | 適正な財務管理 | 財務マニュアルの作成及び収支状況の記録 | | | | | 適正に実施 | B | 指標のとおり |
| 業務 | 安心・安全の確保 | ・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成 | | | | | ・防災訓練:2回 ・マニュアル作成済 | B | 指標のとおり |
| | コンプライアンスの徹底 | 職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年 | | | | | 1回 | B | 指標のとおり |
| | 市内産業の貢献 | ・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上 | | | | | 90.0% | B | 指標のとおり |
| | 関係団体・地域との調整 | 関係機関・地域との連絡調整会議の実施 : 1回以上/年 | | | | | 9回 | A | 指標を大きく上回った |
| | 市民協働の推進 | ボランティアの受入れ : 延べ800人/年以上 | | | | | 571人 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | | 市内の動物関係団体等との連携事業 : 6回以上/年 | | | | | 4回 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| | 社会貢献 | 市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 : 200回以上/年 | | | | | 126回 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| 施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ50人/年以上 | | | | | | | 48人 | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響による) |
| 施設の稼働 | 年間休館日数 : 24日以内/年 | | | | | 食と花の交流センターは16日(①通常休館2日②4月29日から5月10日までの12日間を緊急事態宣言発令による新潟市からの指示により休館③1月10日から11日までの2日間は大雪よりお客様の安全を確保するため休館)食育・花育センター、動物ふれあいセンター、こども創造センターは44日(①通常休館20日②4月19日から5月10日までの22日間を緊急事態宣言発令による新潟市からの指示により休館③1月10日から11日までの2日間は大雪よりお客様の安全を確保するため休館) | C | 指標を下回った(新型コロナウイルスの影響及び来場者の安全確保のため) | |
| 人材 | 労働基準の充足 | 労働関係法令の遵守 | | | | | 適正に実施 | B | 指標のとおり |
| | 業務の理解度と習得度 | 職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年 | | | | | 5.4回 | A | 指標を大きく上回った |
| | 市内雇用の貢献度 | 市内住居者の雇用率 : 90%以上 | | | | | 93.4% | B | 指標のとおり |
| | 支援者の育成 | 支援者研修会の実施 : 12回以上/年 | | | | | 168回 | A | 指標を大きく上回った |

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

■ 食と花の交流センター

食と花の交流センター全体の令和2年度の来場者数は611,448人(前年度比-62,614人:91%)と前年度を下回った。施設別ではガーデンが223,740人(前年度比-57,055人:79.6%)と増大した。イルミネーションは23,646人(前年度比-6,049人:79.6%)と減少し、レストランはビュッフェスタイルでの営業が困難となったため、3月6日から休業とし7月1日より「焼肉レストラン」として業態を変更し来場者数37,192人(前年度比-11,277人:89%)で、いずれも前年度からは減少した。これは新型コロナウイルス感染症が大きく影響したもので、感染症の状況により、大幅に回復できると考えている。直売所の来場者数は、326,870人(前年度比+11,767人:103%)と前年度並みであったが、平成26年開場以来、最高の来場者数であった。直売所では、毎月旬の農産物をご紹介し、新型コロナウイルスの影響により、商品の販売が好調だったことが要因と考えられる。尚、来場者数は4月、5月、1月以外の全ての月で前年度を上回った。視察件数は前年度と同数で3件、団体件数は目標値を下回り81件、前年度に比べて大幅に減少した(前年度比-282件:22%)。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めた学校等が、多数校外での活動を控えたことが要因と考えられる。

花とみどりの展示館の施設利用許可数も減少したが、感染症の影響で中止や延期にした事業が多く、次年度に向けて増加に転じる予定である。

食と花のプロモーション企画については、チューリップ球根の配布や、ガーデニングの指導等を実施し、目標値を上回る結果となった。交流イベント、外部との連携事業は前年度より少なかったものの、今後、感染症の状況によっては積極的に取り組んでいくために、次年度に向けて協議を行ってきたい。

次年度については、自主事業の「体験農園」を開園し、新潟の食と花の魅力、育てる楽しさを新潟市民に体験していただき、伝えていく計画である。また、いくとびあ食花の取組みについてSNS等を通じて広く周知し、広報を充実させていくとともに、いくとびあ食花の各センターの特徴を生かし、連携した企画を検討・実施し、各種目標値の達成に努めていくものとする。

■ 食育・花育センター

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策により4月19日から5月10日の22日間、また、大雪のため1月10日・11日の2日間を休館し、年間の入館者数は、235,514人(前年度比-143,337人:62%)であった。新型コロナウイルスの収束が見込めない中でイベントや体験・講座などの企画には苦慮したが、感染対策に最善を尽くす中で、各種イベントや料理教室・園芸講座などを実施し、教室や講座の参加者1,400人から回答をいただいたアンケートでは、接客満足度が99.7%、施設満足度が98.4%と非常に高い数値であり、お客様よりからの評価は高かったものとする。

今年度の取り組み・成果として次の二つが挙げられる。

- 1 食育ミニ体験を112回(前年度比の97%)実施し、充実を図った。
- 2 園外活動を実施している園に向いて団体体験プログラムを実施する「出張プログラム事業」を10月から開始した。3月末までに延べ36園を対象に実施し、大変好評であった。課題としては、団体体験プログラムの利用促進が挙げられる。今年度は149団体で、いくとびあ食花全体としても目標値を大きく下回ってしまった。次年度は、団体体験プログラムの利用を促進するために、校・園に対する周知に努めるとともに、対象に応じた教材等を工夫して利用した校・園の満足度を高めていきたい。

■ 動物ふれあいセンター

動物ふれあいセンターの入場者数は230,296人(前年度比-106,700人:68.3%)と大幅に減少した。新型コロナウイルスの影響により4月・5月に計22日間を閉館にしたことが入場者減の大きな要因であり、加えて1月10日、11日の2日間も大雪による臨時休館を行ったことも入場者減の要因となった。休館日を除く1日平均は717人(昨年度比-356人:66.8%)であった。

団体利用に関しては、184団体、前年度に比しても減少した(前年度比-247団体:42.7%)。雨天時にも団体利用ができる事を含め、学校や団体などに魅力を伝える工夫をしていきたい。

体験と学習に関しては、64団体(前年度比-40団体:61.5%)と減少した。次年度は団体イベントの内容を公式HPでの動画での説明など、新たな招致方法を行いたい。

譲渡の推進については、新型コロナウイルスの影響により通常の譲渡会は行わず、参加人数を制限しながら毎日譲渡会を開催したため、昨年以上の譲渡頭数となった。次年度はプロジェクターを使用して、よりスムーズな譲渡会を行ってきたい。

他、今年度の誘客活動として、キラキラガーデンを使用したコラボ企画の推進、いくとびあ食花全体でのイベント(8大イベント)への積極的な取り組みを行うとともに、広報活動として、HPのタイムリーな情報更新、プレスリリースに注力し、HPにおいては情報更新回数が331回(前年度比+81回:132.4%)と前年を大きく上回った。

次年度においても、顧客満足度の向上を常に念頭に置き、施設の掲示物の充実、スタッフの迅速・丁寧な対応を強化し、より多くの入場者の獲得に努めるとともに、各種目標の達成に努めるものとする。

■ 子ども創造センター

令和2年度の総利用者数は、新型コロナウイルス感染症のために4月19日から5月10日まで22日間の臨時休館があったり4波まで繰り返す中で126,244人(昨年度比52%)となり、開館日の一日平均では381人(昨年度比54%)となった。前年度比半数程度ではあったが、新潟市民中心に身近なお出かけ施設としての利用が顕著となった。とりわけ、乳幼児を連れた若いご家族の利用が増加している。こうした実態を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、次のような事業展開に努めた。

○「絵本の世界で宝探し」・「絵本・図鑑貸出」・「絵本ライブ★絵本読み聞かせ」など絵本に親しめる事業の新設・展開。

○ あかちゃんひろばでお子さんと遊びながら、子育て情報等に触れることができる掲示物の充実。

○ いつ来ても自分たちで選べる創作・体験活動を年間2,977件開催。参加者総数は延べ86,874人。

○ 県産材おもちゃの充実。

○ 子どもさんの発表要求をかなえる「子どもミュージアム」・「ヤギさんポスト」の開設

○ 「デジタル絵本」などのHP運用やSNS活用。

次年度についても、新型コロナウイルスへの感染対策を継続して実施しつつ各種事業を展開するとともに、新潟市民の新しい生活様式にあわせた子育て支援事業の工夫・展開にも取り組むものとする。

所管課による総合評価(所見)

いくとびあ食花各施設の設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、ゴールデンウィーク前後の約20日間を臨時休業としたほか、各種講座や体験活動の参加定員を減らすなど、感染防止のために施設の利用制限を行わざるをえなかったことから、入場者数などの評価指標は要求水準を達成するのが困難な状況であった。

一方で、来場者の満足度は98.5%と、目標を大きく上回った。これは、感染症対策に係る施設マニュアルを早期から丁寧に作成し、利用者の安心・安全に配慮した対応を行ったことや、4施設がそれぞれコロナ禍に対応して事業の実施方法等を見直し、新たな事業を企画・展開するなど、運営の改善に努めたことが、高い評価につながったものと考えられる。

今後も感染防止の対策を行いながら、4施設の特長を活かした企画をさらに充実させ、引き続き多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいきたい。